

売り場の商品を見て「買ってみよう」
と思うのには、実は明確な**理由**がある？



理由その①

パッケージ包装は、“商品”を伝える重要な役割を担っています

◆ブランドらしさを伝える

いつもの色で、いつもの商品だと分かる

◆中身の魅力を伝える

味・香り・質感を色や光沢で表現する

◆世界中で同じ印象を届ける

国や地域を越えて品質イメージをそろえる

◆正しい情報を伝える

原材料・使い方・注意事項を読みやすくする

理由その②

購入時は、パッケージを見て商品の“中身”をイメージしています

“色”と“質感”は、商品の第一印象をつくっています



印刷前の状態



色を印刷した状態



質感・仕上げで印象が変わる

商品の中身をイメージする要素には、“色”と“質感”が大きく関わっています

色は「インキ」、質感は「コーティング剤」の技術が使用されています
またパッケージ包装は、中身を保持するための「バリア層」や、各層を貼り合わせる「接着剤」の技術等を使用した、**多層構造**のフィルムでできています
※左図例のスタンディングパウチの場合※

彩り豊かなパッケージ包装は、さまざまな情報を発信
その情報を消費者が受け取り、商品を選択しています

パッケージ包装は、商品と人をつなぐコミュニケーションツールです

理由その③

“安心・安全”に商品を購入できるのは、多層構造の技術があるからです



印刷インキ
色・デザイン・情報を伝える



表面フィルム
印刷面を守る／強度を持たせる



接着剤
異なる素材をしっかりつなぐ



バリア層
酸素・水分・光などから守る



シール層
袋を閉じる・開けやすさを調整

多層の材料の組み合わせが、食品の品質・安全・使いやすさを支えます

理由その④

“環境対応”に配慮していることも、商品を選ぶ理由の1つです

①過剰包装の削減
パン袋の上部をなくす等

②減層
積層の数を減らす等

③エコ素材の使用
バイオマス・堆肥素材等

④リサイクル対応
単層によるモノマテ化

⑤紙化
紙素材へのシフト等

上記の5つ以外にも、各企業は様々な環境対応に向けた技術開発を進めています

インキ・接着剤・フィルム・コーティング剤を組み合わせ、
「彩る」「守る」「つなぐ」「環境に配慮する」を実現します

パッケージ包装は、商品を守って役目を終える時代から、
サーキュラーエコノミーを実現し、「社会課題を解決」する時代へ

近年は「PPWR(EUにおける包装および包装廃棄物に関する規則)」の施行により、各国へグローバルな環境対応が求められています

各企業は「動脈」だけでなく、社会課題へアプローチする「静脈」との両面から、パッケージ包装技術の開発を進めることで、サーキュラーエコノミーの実現を目指しています

動脈と静脈のイノベーションで パッケージの未来をつなぐ

動脈

価値を生み出す
素材・複合化技術

インキ

フィルム

接着剤

コート剤

ポリスチレン



静脈

価値を再生する
高度化プロセス

脱墨システム

溶解分離リサイクル

剥離技術